

優秀賞

助け合いの輪を広げて

真鶴町立真鶴中学校二年 但野 海宇

私は、小学生のときにクラスみんなで海岸のゴミ拾いボランティアに参加したことがあります。当時私は、めんどうくさい。少し拾っても、また増えてしまうだろう。ゴミ拾いは、私達にどんな利益があるのかな。とこの活動に少しひねくれた感情と疑問を持っていました。しかし、始めてみると友達と拾ったゴミの量を競ったり、自らの手で綺麗にして目に見えた結果や地域の方と協力し助け合って掃除することに楽しさとやりがいを感じました。一時間程の活動の後、私は「参加してよかった。」と思いました。しかし、当時の私は少しショックを受けました。なぜなら、思っていた数倍のゴミが、海岸にたまっていたからです。一時間頑張ったとしても、まだ奥の方にゴミがあるのが見えていました。そんな現状を目の当たりにして、またゴミ拾いをする前の考えが頭をよぎりました。少し拾ってもまた増える。ゴミ拾いのメリットってなんだろう。ボランティアの大変さを知った後で、私はその疑問について調べてみました。

現在、世界には一億五千万トン程の海洋ゴミが存在し、年間八百万トンもの海洋ゴミが発生し続けているそうです。私達が拾ったゴミはゴミ袋数十個。やはり、この大きな数字と比べると微々たるものだと思います。ですが、調べて気づいたこともありました。インターネットで海洋ゴミについて調べると「対策」や「減らす」というような関連用語が多く出てきました。ここから、ゴミ拾いボランティアのよきな活動に参加したり、日常のささいな行動を意識している人が一定数いるんだ、と気づくことができました。さらに調べ進めていくと、私が参加したようなボランティア活動は日本に限らず、世界でも進められており、世界全体で海洋ゴミ問題などに取り組まれていました。

私は、体験と調べたことを通して気がついたことが二つあります。一つ目は、小さな行動でも影響は伴うということです。先述の通り、私が参加した活動で集めたゴミは世界に漂うものと比べると僅かです。ですが、これが日本、世界中で行われていると思うと、必ずゴミは少なくなっている、そう思えました。量への影響もそうですが、私自身、ボランティアに参加したことによる気持ちへの影響もありました。最初は、マイナスな考えを持っていましたが、自分から行動し、ゴミの現状を知った後では、「どうしたら解決できるだろう。」という考えと変わっていきました。二つ目は、ゴミ拾い・ボランティアのメリットです。私達が得られる利益とはなんだろう、と考えていましたが、これは一方的な利益ではなく、環境との「助け合い」なんだと気がつきました。「海」だとすると私たちは日頃から海産物など、多くの恵みをもたらしています。私たちは、その恵みをゴミ拾い、という形で守っているのです。これは海洋ゴミだけの問題ではなく、多くのボランティア活動でこのような「助け合い」が各地で行われている、と思いました。

私はボランティア活動は、最高の「助け合い」だと思います。活動内でも、人とつながり、助け合える。活動の結果としても「助け合う」。私はゴミ拾いを通して気づくことができましたが、まだ以前の私のように「小さな行動」の大切さをよく分かっていない人が多くいます。私はそんな人々に、人と、環境と助け合うことの重要さを伝え、助け合いの輪を広げていきたいと思うのです。